

学校訪問シリーズⅡ

津久見市立第一中学校から学ぶ

学校の教育目標「ふるさとを愛し、主体的・協働的に学び行動する一中生」を達成するため、育成を目指す資質・能力を「志力（キャリアプランニング力）、自律力（自己管理能力）、絆力（人間関係形成力）、実践力（課題対応能力）」と定め、学力、体力、徳育の3つの向上推進部を中心に組織的、計画的に取り組んでいます。

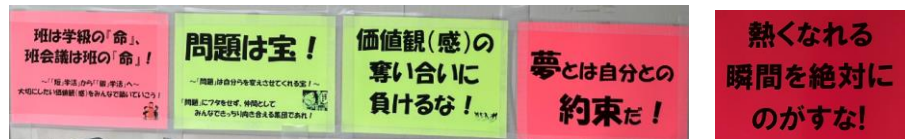


学校経営から学ぶ

これまでも、キャリア教育の視点に立ったねらいの設定や、班活動を中心とした自治的な取組を行うことで、上記の4つの資質・能力の育成に取り組まれてきました。さらに、生徒と教師の双方向から授業評価を行う等「生徒と先生で共に創る授業」や、計画的な互見授業を充実させることで、授業改善もすすんできたようです。

また、スマホ等の利用については、生徒会が「一中命を守る三か条（時間・責任・危険）」を定め、家庭と協力しながらそれぞれルールを決めることで自律力を高めています。

このような継続的な実践の成果が、今年度の全国や県の学力状況調査の好成績にもつながったと思われました。



絆力

発言者は丁寧に説明する。
聴く人は共感的に受け入れる。
共に相手軸で学び合う。



志力

一人では不安なことも、友達と協力し励まし合うことで、諦めずに頑張ることができる。

授業から学ぶ

参観した全ての授業において、めあて、課題の設定や本時のながれが示されており、組織的に授業改善を行っていると感じました。

特に2年生社会は、日常会話を取り入れたパフォーマンス問題を与えることで、生徒に課題解決の必然性を感じさせ、さらに、評価の基準（ルーブリック）を最初に示していることから、ゴールイメージを掴ませていました。また、タブレットを利用することで、生徒達はクラス全員の考えを知ることができるので、教師に頼ることなく自主的に課題に取り組んでいました。ICT活用のお手本のような授業でした。

1年生英語は、みんなでテンポよく繰り返す場、個人の力で問題を解く場、集団で考える場を設定することで、リズムのある授業が展開されていました。楽しく学ぶだけでなく、基礎・基本を定着させながらも、自分の考えを表現させるような実践は、他の教科の参考にもなると思いました。



実践力

課題は、自分で調べたり、いろいろな人と対話したりすることで、解決することができる。



自律力

自分を信じ、仲間信じて、勇気をもって一歩を踏み出す。
易きに流されない。